



—東地中海地域ニュース—

中東和平：アッバース大統領のインタビュー発言

(4月27日付現地紙)

4月27日付現地紙は、26日にアッバース大統領がイスラエルTV局チャンネル2のインタビューに応え、パレスチナがミッチェル米國中東和平担当特使からイスラエル政府のエルサレムにおける当面の入植地建設活動中止の確約を得たとして、イスラエルとの交渉に応じる用意があると発言したと概要以下の通り報じた。なお、同紙によると、今回のインタビューは米国からアッバース大統領への強い要請により実現した。

1. 自分（アッバース大統領）は、5月1日に開催されるアラブ和平イニシアティブ・フォローアップ委員会の会合で、アラブ連盟が（イスラエルとの対話を）承認し、前向きに捉えることを望む。
2. 将来的にパレスチナ国家が樹立された際には、非武装化すべきとのネタニヤフ・イスラエル首相の要求に対しても柔軟に対応する可能性はある。
3. 基本的には、土地交換に合意する用意はあるが、あらゆる領土の交換は全て1（領土）対1（領土）でなければならない。
4. 難民の帰還権に関しては、（アラブ和平提案を引用しつつ）パレスチナ・イスラエル双方の合意に基づいた解決法でなければならない。イスラエルへの大量帰還はないことを受け入れる可能性はある。
5. （イスラエルとの和平交渉が失敗に終わる場合、2011年8月までに一方的にパレスチナ国家の樹立を宣言すると決定したファイヤードPA首相との不仲について）自分は一方的な決断（の有効性）を信じておらず、同首相の計画には反対である。（パレスチナ国家の樹立は）双方の合意に基づくべきであり、一方的な決定はない。
6. パレスチナ、欧州、米国の高官及び希望するあらゆるイスラエル人が参加できる会議を、2ヶ月以内にジェリコで開催したいと考える。
7. ネタニヤフ・イスラエル首相との交渉を再開する用意がある。